

性的指向・ジェンダーアイデンティティの多様性に関する 基本的事項等について～LGBTQ 全国調査の結果を踏まえて～

令和5年12月14日（木）
宝塚大学看護学部 日高 庸晴

I. 総論

○LGBT／性的マイノリティとは？

Sexual Orientation { L (レズビアン)
G (ゲイ)
B (バイセクシュアル)

Gender Identity T (トランスジェンダー)

○職場や学校でLGBTQ+についての差別的な発言（2022年調査結果<註1>）

- ・回答者のうち37.2%（10代の回答者では52.6%）が見聞きした経験が「1年以内にある」、32.7%（10代の回答者では24.6%）が「1年以上前にある」と回答。

○周囲との違いに気づいた年齢（2019年調査<註2>）

- ・平均年齢は14歳、LGBよりMTF/FTMの方が自覚した年齢が早い。

○相談のニーズ（2019年調査）

- ・全体で4人に1人、10代に限定すれば3人に1人に相談に乗ってもらいたかったニーズがあったと回答。とりわけトランスジェンダーに高率な傾向。

○SNS等で差別発言を見聞きしたこと（2022年調査結果）

- ・回答者のうち17.2%が「1年以上前にある」、71.5%が「1年以内にある」と回答。

○気づいたときに欲しかった情報（2022年調査）

- ・性別・性自認・性的指向について周囲の人と違うと初めて気づいた時に欲しかった情報として、回答者のうち61.6%が「同じLGBTQ+の人がいるかどうか」、48.1%が「LGBTQ+の人に会える場所」、26.8%が「LGBTQ+の人でお手本となる人の情報」と回答。

II. 学校

○特に用事がないのに、保健室へ行ったこと（2022年調査）

- ・回答者のうち24.2%が「特に用事がないのに、保健室へ行ったこと」があると回答。（10代の回答者は32.9%、20代は29.5%と若年層であるほど割合が高くなる）

○いじめ被害・不登校・自傷行為の生涯経験率（2019年調査）

- ・いじめ被害・・・回答者全体で59.6%、10代の回答者では47.4%
いじめ被害者の76.9%がいじめに遭っていることを知っている人や目撃した人がいると回答、かばってもらえた、助けてもらった者は36.7%
- ・不登校経験・・・回答者全体で22.6%、10代の回答者では30.2%
- ・自傷行為の経験・・・回答者全体で14.2%、10代の回答者では25.6%

○学校生活（小・中・高）で、いじめられた経験の有無（2022年調査）

- ・回答者のうち57.8%が「ある」と回答、10代の回答者では38.8%。

○学校生活（小・中・高）で、不登校になった経験（2022年調査）

- ・回答者のうち21.1%が「ある」と回答、10代の回答者では34.9%。

○学校生活で、性的指向や性自認について相談したこと（2022年調査）

- ・回答者のうち6.9%が「ある」と回答、10代の回答者では29.4%
（若年層であるほど割合が高くなる）

○学校生活で、性的指向や性自認について相談した相手（2022年調査）

- ・「性的指向や性自認について相談したことがある」と回答した723人のうち、「友人」が最も割合が高く（「男性の友人」36.7%、「女性の友人」52.6%）、次いで「SNS等で知り合った人」（27.0%）、「LGBTQ+当事者の友人」（23.8%）、「担任の先生」（22.3%）、「母親」（21.9%）「スクールカウンセラー」（17.4%）、「養護教諭」（11.9%）

○自殺未遂リスク

- ・ゲイ・バイセクシュアル男性において、性的指向を周囲にカミングアウトしている人ほど自殺未遂リスクが高く、6人以上にカミングアウトしていると自殺未遂リスクは3.2倍高い<註3>。
- ・異性愛男性に比較してゲイ・バイセクシュアル男性の自殺未遂リスクは5.98倍高い<註4>。

Ⅲ. カミングアウト

○親へのカミングアウトの状況（2022年調査）

- ・回答者の27.9%が親にカミングアウト、10代の回答者では26.5%。
カミングアウトは年齢差、地域差があることが示唆されている。

○親や学校/職場でのカミングアウト状況（2019年調査）

- ・若年層ほどカミングアウト率は高い。10代の55.2%、20代の48.9%は親、職場（学校）いずれかへのカミングアウトがあり、親と職場（学校）の両方ともにカミングア

ウトは10代で20.6%、20代で18.5%。誰にもカミングアウトしていない割合は40代66.3%、50歳以上71.6%と多い。

○現在の職場でのカミングアウト（2019年調査）

- ・回答者のうち29.7%がカミングアウトしたと回答。
- ・トランスジェンダー（FTMで68.5%、MTFで60.0%）、レズビアン（44.2%）が高率な傾向。正規雇用常勤者のカミングアウトは低率。
- ・地域差があり、都市部在住者のカミングアウト率が高い。

IV. アウティング

○アウティング被害経験割合（2022年調査）

- ・回答者のうち21.7%がアウティング（暴露・バラされた）被害に遭ったと回答。
- ・FTMの場合52.3%、MTFの場合41.5%が経験。

V. 暴力等の被害実態と相談先

○暴力や性暴力、脅迫などの生涯経験割合（2022年調査）

- ・「身体的な暴力被害にあった」・・・13.9%
- ・「性暴力被害にあった」・・・11.5%
- ・「脅迫・恐喝にあった」・・・9.3%
- ・「ストーカー被害にあった」・・・8.7%
- ・「DV被害にあった」・・・5.8%
- ・「性的指向や性自認をばらす等と脅された」・・・5.1%

○被害について相談した相手（2022年調査）

- ・被害経験者のうち33.6%が「友人・家族など」、13.0%が「警察」に相談したことがあると回答した一方、52.8%が「誰にも相談していない」と回答。

○相談したときの経験（2022年調査）

- ・警察・民間団体・弁護士に「親身になって話を聞いてもらった」と回答した割合：
「警察」42.1%、「民間団体」61.4%、「弁護士」67.8%
- ・警察に相談した人のうち、
 - ・被害届を受理された割合は28.0%、不受理は7.5%
 - ・「被害の内容を信じてもらえなかった」・・・10.5%
 - ・「被害そのものを疑われた」・・・11.7%
 - ・「警察の態度が嫌だった」・・・29.5%
 - ・「LGBTQ+に関して差別的なことを言われた」・・・5.6%
 - ・「LGBTQ+の相談にはのれないと言われた」・・・1.5%
 - ・「LGBTQ+についてわかっていないようだった」・・・11.7%

VI. 医療環境

- 医療機関に行くことを我慢（受診控え）（2019年調査）
 - ・回答者のうち8.3%が性的指向・性自認を理由に受診控えをしたことがあると回答（※MTFの場合51.2%、FTMの場合38.8%）

- 「医療・介護関係事業者における個人情報保護の適切な取り扱いのためのガイダンス」（2017年、個人情報保護委員会・厚生労働省）

- 「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン解説編」（2018年、厚生労働省）

- 安心して受診するためには
 - <病院側> 患者さんのうち誰がLGBTQの当事者か、分からない
 - <当事者側> どの医療従事者が理解があるか分からない

<出典>

- 註1 第3回LGBTQ当事者の意識調査（ライフネット生命保険委託調査、調査期間：2022年12月1日～2023年4月21日、LGBTQ当事者10,449名を対象に実施）
- 註2 第2回LGBT当事者の意識調査（ライフネット生命保険委託調査、調査期間：2019年9月2日～12月1日、LGBT当事者約10,769名を対象に実施）
- 註3 Hidaka Y & Operario D (2006) Journal of Epidemiology and Community Health 60: 962-967
- 註4 Hidaka Y, et al (2008) Attempted suicide and associated risk factors among youth in urban Japan. Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology 43,: 752-757